

## 第7回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

<b>日時</b>	令和3年(2021年)9月21日(火) 18時00分～19時30分		
<b>方法</b>	Zoomを用いたオンライン会議		
<b>出席</b>	懇話会構成員21名		
<b>欠席</b>	田中章、林裕二、松尾穂野香、伊東琴音、瀧本杏、三ツ井葉留	<b>傍聴者</b>	傍聴8名、報道4社
<b>事務局</b>	伊那北高校	山岡教頭(事務局長)、大石教諭、倉石教諭、斎藤教諭、山崎教諭	
	伊那弥生ヶ丘高校	藤澤教頭(副事務局長)、唐澤教諭、濱田教諭、春日教諭、原教諭	
	県教育委員会	上原主幹指導主事、田中主任指導主事、石井主事、浅井主事	
<b>当日資料</b>	第7回懇話会次第、第6回懇話会まとめ、伊那新校の学校像について(伊那新校プロジェクトチーム案)、単位制について、上伊那地域の中学校卒業予定者数の推移(見込)と新校の募集定員の想定について		

### 会議事項

1 報告	(1) 第6回懇話会まとめ
2 会議	(1) 伊那新校の学校像(伊那新校プロジェクトチーム案)についての意見交換 (2) 上伊那地域の中学校卒業生数の推移と募集学級数についての意見交換
3 連絡事項	次回予定(令和3年10月26日(火))

### 意見交換(伊那新校の学校像(伊那新校プロジェクトチーム案)、上伊那地域の中学校卒業生数の推移と募集学級数について)

#### 【伊那新校の学校像(伊那新校プロジェクトチーム案)について】 ⇒事務局からの回答

##### <目指す学校像、育てる生徒像について>

- 起業して地域を牽引していくという意味合いをもう少し入れてほしい。
- 「生徒の希望する進路を実現できる学校」の表現は、力強いものにしてほしい。
- 「地域の学びを牽引する学び」は特徴的であるが、伊那新校ならではの特徴、何を指すのかを表現してほしい。
- 地域の学びがグローバルな視点につながるのでは。マイルドな表現でバランスがとれた学校像であると思う。
- 勉学で人生を切り拓く生徒のことだけでなく、生徒が地域を盛り上げる部分(スポーツや芸術等)も入れてほしい。

##### <設置学科、カリキュラム、地域連携・コンソーシアムについて>

- 教科横断型な授業について、自然と行われている部分があれば、意識して行っているものもある。教員には、今、それに取り組もうという意欲があり、「総合的な探究の時間」の中でも行われている。
- 中学校から高校に入って、すぐに大学のようにするのは心配。カリキュラムを選択する力をつけさせる取り組みや、選択をサポートする体制が必要に思う。
- 「卓越した探究」とはどのレベルに設定してどこを目指すのだろうか。そのあたりもイメージできる表記になるとよい。
- 上伊那地域の課題は、グローバルな課題(ゼロカーボンや高齢化社会など)につながるのではないかと。そういった部分を深めていけばよいと思う。
- 地域の方と接して、課題解決をグローバルな視点で探究して学んでいくのはよい。「予測困難な未来に向かって…」は良い表現である。できるだけ早く、子供たちが目標を決めて挑戦していくのはよい。目標を持つのをサポートする先生は必要だと感じる。
- 大学でも履修計画を学生が作るが、なかなか難しい。2回ほどガイダンスを行い、アドバイスをしている。基本的には必修を作って、選択をさせないと難しいのではないかと。
- 県看護大学はほとんど必修であるので学生の履修に心配がない。ある程度必修はないと大変なのではないかと。  
⇒高校なので、文部科学省から必修科目が示されている。1年次はほとんど必修科目を学ぶ形になると考えている。
- 高校の単位制について情報不足。大学と高校は違うと思う。結果的に予備校のようなコースをイメージしてしまう。バランスをとって学ぶことも必要である。例えばこのように学んでいくというようなことがわかるものを出してほしい。

#### 【上伊那地域の中学校卒業生数の推移と募集学級数について】

- 8学級だと、他地域への流出が心配。10学級規模で希望する生徒が入れるようにしてほしい。
- 少子化への対応や適正な教職員数のことを考慮すると8学級規模で開校し、規模を維持してほしい。
- 10年も先になると学習指導要領も変わってしまう部分もあるので、一刻も早く開校してほしい。

### 今後の検討課題

- 第7回懇話会での意見を踏まえた新校の学校像についての意見交換
- 単位制高校についての情報提供、統合の方法についての意見交換